

2026年3月27日

キャリアコンサルティング技能検定1級 学科・論述・面接試験 合格体験記

1級受検番号 NO 03F3520447 氏名 N.S (東京都 在住)

■1級技能士を目指したきっかけ

数年前に2級技能士試験に合格しましたが、正直なところ、実力で掴んだというよりも、運よく合格できたという感覚が強く残っていました。面談としても納得のいく内容ではなく、このままでよいのかという不安がありました。

そのため、改めて自分の力を高めたいという思いから、1級技能士を目指すことにしました。また、企業での業務に加え、中小企業診断士・行政書士として中小企業支援に関わる中で、経営者や従業員のキャリア支援、さらには組織全体のキャリア開発の重要性を強く感じるようになりました。こうした領域に関わり続けるためにも、より高い専門性を身につけたいと考え、1級への挑戦を決意しました。

■当初の勉強法

私は2回目の受検(第15回)で合格しました。初回受検(第14回)は、学科・論述は合格基準に達していたものの、面接は、基本的態度以外、すべて50点台、そして問題把握力、具体的展開力は50点前半という結果でした。

準備をしていなかったわけではなく、むしろ時間をかけて取り組んでいましたが、この結果を見て、根本的に何か捉え方や進め方が違うのではないかと感じました。そこで2回目の受検に向けては、そもそもこの試験は何を見ているのか、どのような構造なのかという点から学び直すことにしました。

「丸わかり講座 1級技能検定の構造と合格のための方法論」を受講し、試験の全体像を理解し直したことが、大きな転機になりました。

■合格のきっかけ

合格のきっかけは、「これは試験である」という前提を正しく理解できたことだと思います。ただし、試験であることを意識しすぎて、評価されることだけを優先した自分本位の面談になってしまうのでは本末転倒であり、あくまで事例相談者にとって意味のある関わりであることが前提だと考えています。

その上で、試験では、自分がどのような意図で関わっているのか、何を指導しているのかを、試験官に伝わる形で表現する必要があると気づきました。

また、試験概要や評価区分を改めて読み込む中で、資料に「受検される方は熟読した上で試験に臨んでください」とわざわざ記載されている意味を強く意識するようになりました。

つまり、試験側が何を見ているのか、受検者に何を求めているのかを理解した上で臨むこと自体が、この試験の重要なポイントであると捉えました。

こうした理解のもとで姿勢を見直したことが、合格につながったと感じています。

■論述試験対策

初回の第14回試験でも論述は合格基準に達していましたが、特に問5の「優先するものを一つ取り上げる」という設問については、設問内容の変更点を認識していたものの

自身の指導方法に関する知識や整理が不十分で、一つのテーマでまとめることに苦戦しました。

そのため第15回試験に向けては、この問5に対応できるよう、指導内容を多面的に整理し、どの観点でも

一定の内容を記述できるよう準備を行いました。また、試験中に考えるのではなく、ある程度その場で書けるレベルまで落とし込むことを意識しました。

論述については、合格点を確実に取ることを目的とし、必要以上に高得点を狙うのではなく、面談対策の時間を割く方針を取りました。

本試験ではタイムマネジメントを徹底し、問題文の確認：20分、回答記述：40分、見直し&修正：20分と配分しました。

■面接試験対策

面接対策として、

「講師が本試験ケースの事例相談者役を演じるロープレゼミ」「成功体験するオンラインロープレ」を受講しました。書籍・資料は「9人の合格者たちの逐語記録Ⅱ」「48分で学ぶ気付きを促す質問集」を活用しました。特に「9人の合格者たちの逐語記録Ⅱ」では、9人の中で、自分の進め方に近いロープレをされている方、自分の普段の言葉の使い方に近い方などを見つけることができるので、その方の逐語を口に出して何度も慣らす練習を行いました。

ロープレについては、事例相談者役になっていただく方ごとに目的を分けて取り組むことが重要だと感じました。

受検者同士のロープレは、流れを身体に馴染ませるための練習として有効です。一方で、講師や合格者の方とのロープレは、評価区分や面接のポイントを踏まえたフィードバックを得ることができ、自分の強みや課題を明確にする上で非常に有意義でした。特に講師の方は評価の観点を熟知されているため、見落としはいけないポイントを具体的に示していただきます。また、直近の合格者の方からは、試験当日のリアリティや判断基準を知ることができ、大変参考になりました。

■受検される方へメッセージ

1級技能士の試験に取り組む中で、さまざまな方から多くのアドバイスをいただく機会があると思います。その中で、おっしゃっていることが人によって異なり、迷いや戸惑いを感じることもあるかもしれません。

そのようなときは、すべてを取り入れようとするのではなく、ご自身が「しっくりくる」と感じる考えを大切にいただければと思います。また、最初は理解できなかったことが、学びを重ねる中で後から腑に落ちるということも多くあります。

面接試験は、人と人との関わりの中で評価される試験でもあるため、結果に一喜一憂し、自分を過度に否定してしまうこともあるかもしれません。

しかし、学ぼうとする気持ちを失ってしまうほど、自分を否定する必要はないと感じています。むしろ、そのようなときこそ、「なぜ自分はこの試験にチャレンジしようと思ったのか」という原点に立ち返り、その気持ちを大切にしてほしいと思います。

学び続けたいという思いこそが、何よりの力になると感じています。

ぜひ、頑張ってください！応援しております。